

## ご挨拶

日本に数ある日本酒の中から「清酒白鹿」をご愛飲いただき誠にありがとうございます。皆さまより日々ご支持を頂きながら、1662年(寛文二年)よりここ兵庫東西宮の地で本業を変えることなく酒を醸して参りました。清酒白鹿は“灘の旨酒”としての味を守り、世界の皆さまに「旨い！」と感動していただける飲み飽きしない日本酒を目指しております。

辰馬本家酒造では、日本酒の活躍するステージを「飲む酒」「食べる酒」「つける酒」「癒す酒」と名付け、清酒白鹿と日本酒にちなんだ旨いもの、良いものの開発・創造に取り組んでおります。そして、昔から私たちの生活の中で使われてきたお酒の文化を次の世代へも引き継いで参りたい、そう考えております。今後とも、清酒白鹿をどうぞよろしくお願い致します。

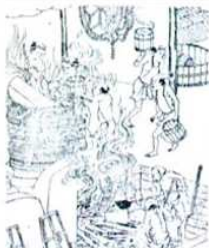
辰馬本家酒造株式会社  
代表取締役社長 辰馬 健仁

## 白鹿の由来

白鹿の名前は長生を祈る中国の神仙思想に由来しています。唐の時代、玄宗皇帝の宮中に一頭の白鹿が迷いこみ、仙人の王叟がこれを千年生きた白鹿と看破しました。調べると角ぎわの雪毛の中から「宜春苑中之鹿」と刻んだ銅牌が現れました。“宜春苑”とは唐の時代を千年もさかのぼる漢の武帝の時代のもの。皇帝はこれを瑞祥として歎び、慶宴を開きました。「白鹿」の名はこの故事によるもので、江戸時代の看板にも「宜春苑 長生自得千年寿白鹿」という銘が打たれています。「白鹿」の名には、340余年の昔から、自然の太いなる生命の気と、日々の楽しみと、長寿の願いがこめられているのです。



## 灘に「白鹿」あり



寛文2年(1662年)に初代辰屋吉左衛門が、その蔵の清冽甘美な井戸水を使って酒づくりを始めました。この水が西宮の水、略して「宮水」と呼ばれる銘酒造水だったのです。実際に「宮水」に銘酒をつくる効用のあることは、「白鹿」がつけられて180年も後に判明するのですが、室町時代にはすでに「西宮の旨酒」として評判を得ていたと記されています。そして江戸時代中期には、灘・西宮の酒はますます人気となり、なかでも「白鹿」は幕末(19世紀初頭)には、“灘の銘酒”として不動の地位を確立しました。明治維新(1868年)以後も常に技術の革新に取り組む「白鹿」は、全国第一の醸造高を記録し、業界に先駆けて海外へも積極的に進出しました。



## 酒はつくるものでなく、育てるもの

酒づくりは、原料米の精米にはじまり、洗米・浸漬・蒸し米・麹づくり・仕込み・発酵・压榨・濾過と多くの工程があります。「酒はつくるものでなく、育てるもの」白鹿のその企業理念は、材料・道具・蔵・樽にいたるまで幾多のものを紡ぎだし、宮水と丹波杜氏の出会いによって磨き上げられ、今日に至りました。

白鹿ではこの丹波杜氏が積み重ねてきた経験を基に、最新の醸造・発酵技術を加えてソフト・ハード両面からハイテク化を推進してきました。1993年竣工の新醸造工場「六光蔵」は、酒づくりの複雑な工程設備を画期的に自動化、コンピュータによって設備の稼働状態からお酒の発酵・熟成過程にいたるまで集中的に管理しています。



蓄積された技と最新のバイオテクノロジーの一体化という、白鹿の酒づくりの夢に大きく近づきました。

## ISO14001の認証を取得

白鹿は、長きにわたり西宮の豊かな自然の恵みの中で、良質の酒を醸し・育ててきました。このことから、より良い地球環境を次世代に引き継いで行くことは、企業としての重要経営課題であり、社会的責務であると認識しています。2000年9月にはISO14001の認証を取得し、本社・工場における事業活動により発生する環境負荷を減らし、環境保護理念の確実な実現を目指し取り組んでいます。

## 白鹿グループは生活創造企業

お正月のお屠蘇、結婚式の三々九度、雛祭の白酒・・・日本の伝統の生活様式と日本酒は、いかに暮らしの洋風化が進もうと切り離せません。やはり晴れの席、慶びの席、また 喜び、悲しみ、楽しみなど人の感情のすぐ側には日本酒があります。私共はこのように日本の暮らしぶりを鮮やかに映し出す酒づくりを通して得た企業力を、酒づくりから一歩進めて、これからの新しい生活づくりのため生活創造企業としてお手伝いをしたいと考えています。西宮に「都市における豊かな生活の実現」をテーマとして、都市コミュニティ創造のシンボルであるホテルを、また スポーツコミュニティの場となるテニスクラブを運営しています。酒づくりの歴史を永く後世につたえる白鹿記念酒造博物館などの文化事業にも取り組んでいます。その他、教育事業・不動産事業・レストラン事業など、心の満足感を求める次代の暮らしにお応えできる「生活創造企業」として多岐にわたり事業を展開しています。

